

令和7年2月28日

中標津町議会議長 後藤 一 男 様

中標津町議会議員 松 野 美哉子

研 修 報 告 書

以下の視察（研修）について、次のとおり報告します。

- 1 視察名 総務経済常任委員会道内視察
- 2 視察先 中札内村役場
- 3 視察日 令和7年2月3日（月）
- 4 視察事項 ふるさと納税
- 5 成果（具体的に）

中札内村は、人口約3,800人の帯広市から車で約30分に位置する農業中心の村です。

当町と同じく道東で人気の海産物がない中で、ふるさと納税額が2018年には5,300万円、2022年には大きく伸び13億円超えのふるさと納税寄附額があり、その対応について視察研修して参りました。

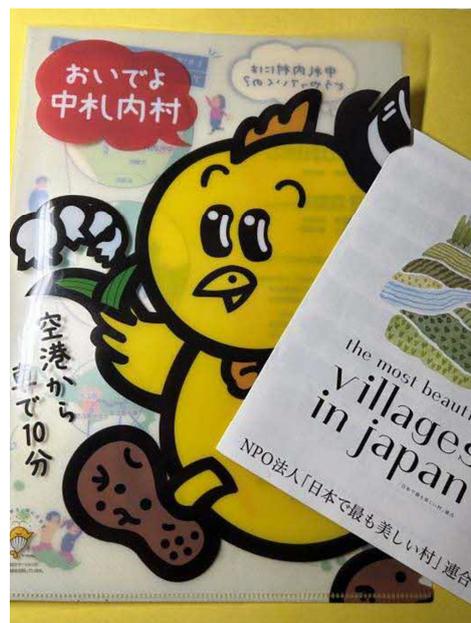
返礼品事業者数は、2019年39社から現在も大きく増加してはいませんが、返品のおおよそ半分を占めているのが豚肉スライス・ラム肉・豚こま肉の肉関係返礼品で、花畑牧場・六花亭等の全国的なブランド力のある企業の返礼品もトップ10にランキングしています。

豚肉は、家庭の中でも多く使われる食材であります。どこでも購入する事ができる品目で、納税額が11億円である事に驚きを感じ、当町でも返礼品としてある豚肉のブランド力を高め納税額を伸ばせるのではと思います。

返礼品事業者は、日々生産していくことで大変です。返礼品として売上げを伸ばすこと



は、町の自主財源確保に協力していただいているので、返礼品事業社を後ろから支え、目の前を広げチャレンジできる環境を整える事が大切です。更にふるさと納税事業を推進していただきたい。



<マスコットキャラクターピータン>

4 視察事項 地域おこし協力隊インターン制度

5 成果（具体的に）

総務省では地域おこし協力隊の取り組みを推進するために、おためし制度やインターン制度の活用促進を図っています。

中札内村では、おためし地域おこし協力隊を令和元年に始め、地域おこし協力隊インターン制度は令和3年から開始されました。

村出身者がインターン制度を活用し、役場に就職したり、インターン終了後再び訪れる事があり保護者からのふるさと納税の申し込みがあるなど、村の関係人口や知名度の向上につながる等の様子が見えたとのことです。

地域おこし協力隊インターン制度の取り入れは、空港のある当町としては、道外の対象者も移動しやすく、関係人口・交流人口増加に役立つことと思われ、当町でも是非とも取り入れていただきたい。

2 視察先 芽室町役場（Zoom）

3 視察日 令和7年2月4日（火）

4 視察事項 ふるさと納税

5 成果（具体的に）

宿泊地帯広では、一晩で1m20cm超えの記録的な大雪に見舞われ、道路が開通せず宿泊施設に足止めとなりました。

芽室町担当職員の皆さんと、平山委員長・事務局の奮闘のお陰でZ o o mでの視察研修となりました。芽室町担当職員からの資料が分かり易く、スムーズで有意義な研修でした。感謝いたします。

芽室町の人口約 17,700 人の町で、ふるさと納税額は 2015 年から 2020 年までは 7,000 万円半ばから 9,000 万円半ばの横ばい状態でしたが、2021 年に 1 億 422 万円、2022 年は 2 億 7,166 万円、2023 年には 4 億 4,500 万円、行政の機構改革をした昨年 2024 年は 6 億円と右肩上がりの伸びを記録しています。

その要因として【7項目の取り組み】の成果と分析してました。

- ① 改革プランの再確認と運用体制見直しによる役割・業務の明確化
- ② シフトプラス（中間事業者）、観光物産協会と連携し情報交換・共有
- ③ 新規返礼品の増と在庫の確保
- ④ ポータルサイトの増
- ⑤ 民間活力の活用（一部業務委託）でサイトページの魅力化
- ⑥ 強力な広告と継続した「魅力発信」

⑦ 特産品「スイートコーン」のキラーコンテンツ化（圧倒的な人気の価値）と挙げられ②については毎月行う「ふるさと納税定例会」、また事業者と信頼関係の構築のために「事業者会議」を開催し情報共有・意見交換を行い、ふるさと納税制度に注力していく理由・経過（改革プラン）を伝えて団結力を高めていて、現在、事業者同士の共同開発の返礼品実績はありませんが「事業者会議」での生の声を聞き出し、コラボ返礼品の取り組みを行っています。

返礼品事業者数も納税額が伸びるとともに右肩上がり、2021 年の 35 社から 49 社、71 社、昨年 2024 年には 78 社と伸びがあります。

サイトには、寄附者層、経済圏の違い、広告の種類の違いやファンづくりなどにより媒体を変えて活用しているとのこと。

芽室町の返礼件数の 9 位までは、町の特産品の「とうもろこし」で、生の返礼品の他にフリーズドライ、コーンスープも含んで 1 億 7 千万円を獲得していて、商品開発も大切であると感じました。

2024 年から芽室町独自の返礼品として「ふるさとレストラン」の事業では、地域活性化起業人発案のプロジェクトが始まり、首都圏の人気レストランと提供し「食事券型」ふるさと納税返礼品として交流人口・関係人口を構築し、地域事業者の販路拡大を支援しています。

参加シェフの店舗は 14 店舗で、それぞれの店舗とコラボレーション中で、令和 6 年度 3 月末で約 4,300 万円の寄附額を見込む事業でした。

芽室町役場は、2014 年に第 5 期芽室町総合計画で行政の機構改革を行い「新しい仕掛

けが必要」「今までやったことのないチャレンジ」のために、稼げる地域に舵を切り、動いている町を感じました。



4 視察事項 地域活性化起業人

5 成果（具体的に）

2023年4月、交流人口・関係人口の創出の拡大と移住定住を推進するために株式会社ぐるなびの“食でつなぐ”“人を満たす”（株）ぐるなびからの派遣社員の基本的業務は①地域の食の魅力、課題等の分析に関する事、②観光コンテンツの制作支援に関する事、③芽室町の地域で生産・製造される商品の販売支援に関する事でした。

Z o o mでの視察研修でありましたが、芽室町の魅力創造課の3人と地域活性化起業人の心から打ちとけて仕事をしている様子を感じました。

職員は、人とのつながりは、この土地の風土であると話されていました。

そのことが、関係している事業者にも伝わり、町全体が活力ある方向に進むのだと感じました。

当町でも地域活性化起業人の施策を取り入れますが、町の方針のもと、起業人の知見と技術が遺憾なく発揮され、担当部署の職員のみならず役場職員全体の働き方に波及効果が伝わり、その働き方がしっかりと町民にまで届くような取り組みになるような推進をして頂きたい。

- 2 視察先 音更町 北海道動物愛護センター道東センター
一般社団法人 ティアハイム十勝
- 3 視察日 令和7年2月5日(水)
- 4 視察事項 動物愛護
- 5 成果(具体的に)

今回視察をした音更町の道東センター(ティアハイム)では、猫のみが保護されていました。

道東地区の保健所から猫を引取り保護し、しつけなどをして、相性の良いと思われる飼い主への譲渡を考えるとのことですが、個人からの引取り依頼は請けていません。

現在当町では、町と保健所、ボランティアの方々の方々の活動により、飼い主のいない犬猫の保護、飼育、譲渡活動が行われている状況です。

その経費は逼迫しているとのことで、町からの何らかの協力を必要としていますが、町は保護犬猫の数を減らすことの広報対策をして、町民にそのルールと責任をしっかりと理解していただく啓発活動に努め動物愛護の実践をしていただくことです。

当町では、関係機関や団体が一同に会し、現在の状況などをしっかりと話し合う事が必要であると、あらためて考える機会になりました。

- 2 視察先 弟子屈町役場
- 3 視察日 令和7年2月5日(水)
- 4 視察事項 ふるさと納税
- 5 成果(具体的に)

人口約6,400人の隣町である弟子屈町は、当町と同じく海に面していないながらも、海産物の納税額が多いことを注視しての視察でした。

ふるさと納税額約70億5千万円の驚異でありました。

また、移住者が町に無かった商品を生産し、返礼品として出品していただく事で、町へ興味関心を持って貰えるようになるのではないかと思います。

当町でも、子育て世代の方々が町づくりの活動や今まで町に無かった食の専門店を開店し人気を集めているとのことです。

今まで気がつかなかった町の魅力をつぶさに拾い集め、今あるものに付加価値を付けてPRしていく作業の推進が必要であると思います。